

ワイヤレストランシーバー

型名 **WD-WT20**

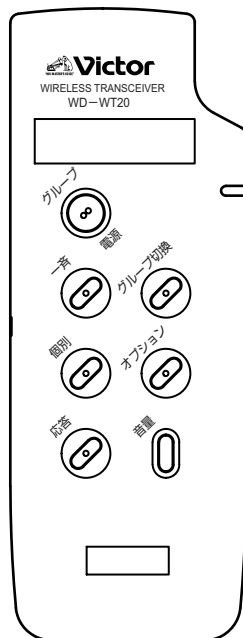
取扱説明書

技術基準適合証明品

—お買い上げありがとうございます。—

ご使用前に、この「取扱説明書」と別冊の「電池の取扱いについて」をお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと保証書と一緒に大切に保管し、必要なときお読みください。本書と合わせて「デジタルワイヤレスインターカムシステム /WD-2000 シリーズ」の取扱説明書もお読みください。

製造番号は品質管理上重要なものです。お買い上げの際は本機に製造番号が正しく記されているか、またその製造番号と保証書に記載されている製造番号が一致しているかお確かめください。



LST0576-001A

特長

WD-1000 シリーズ / WD-2000 シリーズ専用

本機はデジタルワイヤレスインターカムシステムシステム (WD-1000 シリーズ、WD-2000 シリーズ) 専用のワイヤレストランシーバーです。

- ※ デジタルインターカムシステム (WD-1000 シリーズ /WD-2000 シリーズ) で使用する場合、子機登録が必要です。
子機登録については、お買い上げ販売店または、最寄りのビクターサービス窓口にご相談ください。

業務連絡 (1.9 GHz 帯) と構内放送 (800 MHz 帯) が使用可能

- 本機だけで下記の2つの機能が使用できます。
 - ・ 業務連絡用の
1.9 GHz 帯デジタルワイヤレスインターカム
 - ・ 構内 (フロア) 放送用の
800 MHz 帯ワイヤレスマイク
- 別売のコントロールマイクロホン (WD-UM20) を使い、マイクを持ち換えずに業務連絡と構内 (フロア) 放送 (以後、構内放送と呼びます。) を簡単に使い分けることができます。
 - ※ 構内放送を行うには、ワイヤレスチューナー (別売) などの放送設備が必要です。
詳細は、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。

もくじ

はじめに

| | |
|------------------------|---|
| 特長 | 2 |
| もくじ | 2 |
| 正しくお使いいただくためのご注意 | 3 |
| 各部の名称とはたらき | 5 |
| 前面 | 5 |
| 背面 | 6 |

準備

| | |
|-----------------------------------|----|
| 充電する | 7 |
| コントロールマイクロホン (別売) を接続する | 8 |
| ベルトクリップを取り付ける | 9 |
| 本機に取り付ける | 9 |
| ホルダーを使って取り付ける | 9 |
| イヤホンの音量を調節する | 9 |
| 構内放送用の グループ / チャンネルを設定する | 10 |
| 電源を入れる / 切る | 12 |
| 電源を入れる | 12 |
| 電源を切る | 12 |

業務連絡 / 構内放送をする

| | |
|--------------------------------------|----|
| 業務連絡をする | 13 |
| グループ内で通話をする (グループ通話モード) | 13 |
| グループを切り換えて通話をする (グループ切替モード) | 14 |
| すべてのグループに対して通話をする (一斉連絡モード) | 15 |
| 特定の人を呼び出す (個別呼出モード) | 15 |
| 個別呼出や一斉連絡に応答する (個別通話モード) | 16 |
| 構内放送をする | 17 |

その他

| | |
|-----------------------|----|
| こんなときは | 18 |
| 保証とアフターサービスについて | 19 |
| 仕様 | 20 |

正しくお使いいただく ためのご注意

保管および使用場所

- 次のような場所に置かない。
誤動作や故障の原因になります。
 - ・ 許容動作温度(0℃～40℃)範囲外の暑いところや寒いところ
 - ・ 許容動作湿度(30%～80%)範囲外の湿気の多いところ
 - ・ 変圧器やモーターなど強い磁気を発するところ
 - ・ ほこりや砂の多いところ
 - ・ 振動の激しいところ
 - ・ 窓ぎわなど水滴の発生しやすいところ
 - ・ 放射線やX線、および腐食性ガスの発生するところ

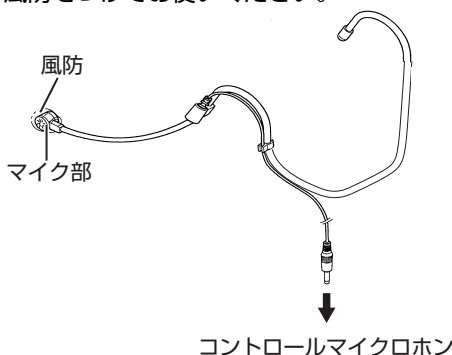
取り扱いについて

- 本機を分解・改造しない。
火災・感電の原因となります。
また、ワイヤレストランシーバーの改造は法律でも固く禁じられています。
- 強い衝撃を与えたり、投げつけたりしない。
本機の故障や、バッテリーの液漏れ・発光・破裂・火災の原因となります。
- 本機に水を入れたり、ぬらさない。
火災・感電・故障の原因となります。
- 専用のバッテリーとチャージャーを使用する。
指定外のバッテリーまたはチャージャーを使用すると、バッテリーの破裂・火災・故障の原因となります。

- 「技術基準適合証明品」をあらわす証明ラベルをはがしたり、破いたりしない。

本機には、「技術基準適合証明品」をあらわす証明ラベルが貼ってあります。証明ラベルをはがしたり、破いたりすると、サービスを受けられないことがあります。大切に扱ってください。

- マイク部に風防をつける。
風防がない状態で使用すると、周りの雑音(特に人の息)を拾いやすくなりますので、風防をつけてお使いください。



- マイク部を本機に近づけない。
ノイズ("ジー"あるいは"ブーン"という音)が発生する原因となります。
- あまったケーブルを本機に巻き付けない。
ノイズ("ジー"あるいは"ブーン"という音)が発生する原因となります。
- ベルトクリップ(WD-UM20に付属)に金属物が触れないようにする。
雑音が発生する原因となることがあります。
- 本機の近くで携帯電話を使用しない。
本機の近くで携帯電話の発着信があると、ノイズ("ジー"あるいは"ブーン"という音)が発生することがあります。
本機と携帯電話を離して(3m以上)お使いください。

正しくお使いいただく ためのご注意(つづき)

取り扱いについて(つづき)

■ハウリング現象(“ピーン”または“キーン”という音)が起こったときは下記のことを行う。

- ・マイクの方向、位置などを変える。
- ・スピーカーから離れる。
- ・ワイヤレスチューナーの音量を下げる。

■次のような使用をしない。

混信や妨害を起こすことがあります。

- ・構内放送用アンテナの近く(3 m 以内)で使用する。
- ・他のワイヤレストランシーバーもしくは、ワイヤレスマイクを近く(50 cm 以下)で使用する。

※狭い室内など、アンテナから3 m 以下で使用する場合は、お買い上げ販売店または設置業者にご相談ください。

バッテリーについて

■バッテリーの取り扱いには注意する。

別紙の「電池の取扱いについてのご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

■バッテリーを使用しないときは、涼しい乾燥した場所に保管する。

高温になる場所(直接日光の当たる場所など)に放置しないでください。

液漏れや寿命を早める原因となります。

■バッテリーの端子部が汚れたときは、乾いたきれいな布などでふく。

バッテリーの端子部が汚れていると、動作時間が短くなります。汚れた場合は、乾いたきれいな布などでふき取ってください。

■バッテリーの充放電回数は約500回。500回以下でも動作時間が大幅に短くなったら、バッテリーの寿命とされます。新しいものをお買い求めください。

■不要になったバッテリーは充電式電池リサイクル協力店へ。

不要になったバッテリーは、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。



Li-ion

イヤホンについて

■大音量で長時間つづけて聞かない。

- ・耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与ることがあります。
- ・はじめから音量を上げすぎると、突然大きな音が出て耳をいためることがあります。音量は徐々に上げてください。

■イヤホンを付けたまま、電源のON/OFFやプラグの抜き差しをしない。

突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

お手入れについて

■本機はやわらかい布でふく。

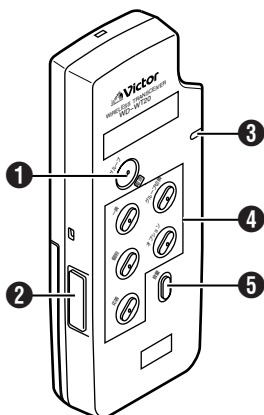
シンナーやベンジンなどでふくと表面が溶けたり、くもったりします。汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤を布につけてふき、あとでからぶきしてください。

省エネについて

■長時間使用しないときは、安全および節電のため、電源を切ってください。

各部の名称とはたらき

前面



① [グループ/電源] ボタン

電源の入/切または、「グループ通話モード」に切り換えます。

② 保守用端子

使用しません。

③ 動作ランプ

| | |
|--------------|--|
| 緑点滅 | セルステーション(親機 / 別売)と接続確認中 |
| 緑点灯 | 通話エリア内 |
| 赤点灯 | 通話エリア外 |
| 赤点滅 / オレンジ点滅 | 電池残量少 ※ 電池残量が少なくなると、本機の使用中にイヤホンから「ピピ、ピピ…」(約10秒間隔)というアラームが鳴りません。 |
| オレンジ点灯 | 構内放送中 |

④ 機能ボタン

ボタンに割り付けられた機能を行うことができます。

| 機能名 | 機能 |
|--------|--|
| 一斉 | すべてのグループの人に連絡します。 「一斉連絡モード」(☞ 15 ページ) |
| 個別 | あらかじめ設定している特定の人を呼び出します。 「個別呼出モード」(☞ 15 ページ) |
| 応答 | 呼び出されたときに押します。 「個別通話モード」(☞ 16 ページ) |
| グループ切換 | 他のグループに切り換えるときに押します。「グループ切換モード」(☞ 14 ページ) |
| オプション | 任意の機能を割り付けることができます。 |

ご注意

- 各ボタンに割り付けられている機能を変更することができます。
- 機能変更されたボタンには、変更後の機能名が表示されているラベルが貼られている場合がありますためイラストと表示が異なる場合があります。詳しくは、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。
- ボタンに割り付けられている機能が「機能なし」の場合は、ボタンを押しても動作しません。

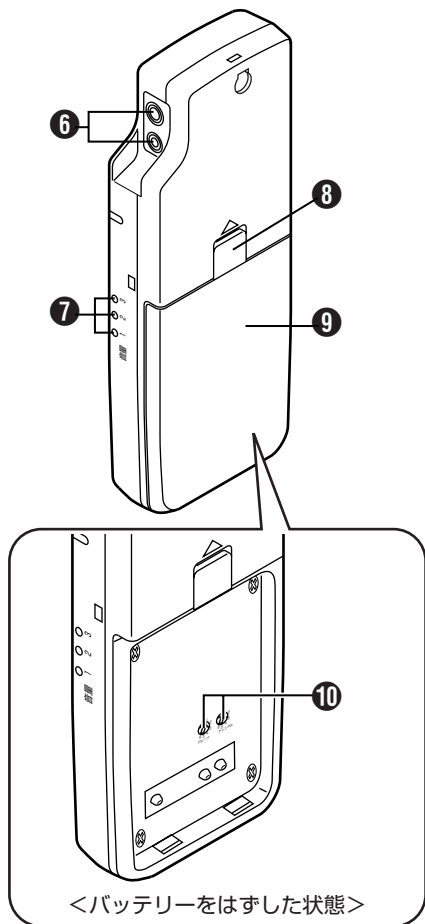
⑤ [音量] ボタン

ボタンを押すたびに 5 段階(特小、小、中、大、特大)で切り換わります。

(☞ 6 ページ『⑦ 音量表示ランプ』)

各部の名称とはたらき (つづき)

背面



⑥ コントロールマイク端子

別売のコントロールマイクロホン (WD-UM20) のツインプラグを差し込みます。(☞ 8 ページ)

⑦ 音量表示ランプ

音量レベルを表示します。

| 音量レベル | 音量表示ランプ | | |
|-------|---------|---|---|
| | 1 | 2 | 3 |
| 特小 | ☀ | ● | ● |
| 小 | ● | ☀ | ● |
| 中 | ● | ● | ☀ |
| 大 | ● | ☀ | ☀ |
| 特大 | ☀ | ☀ | ☀ |

☀ : 点灯

● : 消灯

⑧ ロックレバー

バッテリーを取りはずすときに使用します。

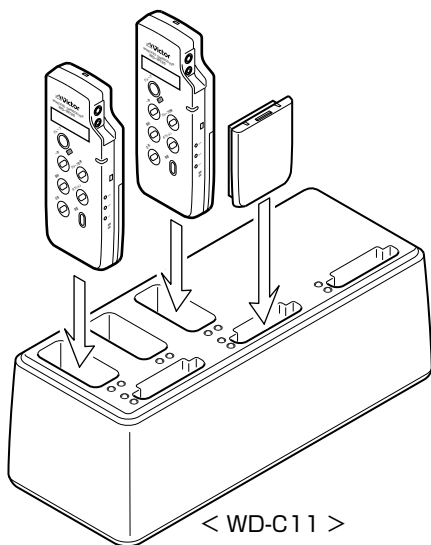
⑨ バッテリー (消耗品)

⑩ [グループ]/[チャンネル] 設定スイッチ

構内放送用グループおよびチャンネルを設定します。(☞ 10 ページ)

充電する

- 本機を使用するときは、あらかじめ専用充電器 (WD-C11、WD-C12) で充電 (約 3～4 時間) してください。
- 充電するときは、本機の電源を” OFF” にしてください。
- 充電器の充電中ランプが点滅するときは、本機をもう一度入れなおしてください。
- 詳しい充電のしかたは、専用充電器の取扱説明書をご覧ください。



ご注意

- 本機を充電するときは、専用充電器 (WD-C11、WD-C12)以外の充電器を使用しないでください。他の充電器を使用すると、火災や故障の原因となります。
- 本機の充電中、下記のような異変があったときは、ただちに充電器から本機を取り出し、充電器の電源プラグをコンセントから抜き、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。
 - ・ 異臭を発している。
 - ・ 異常に発熱している。
 - ・ 変色・変形している。
 - ・ 上記以外に、今までと異なることに気がついた場合。

メモ

- バッテリー(部品番号:SS35736-00F-S)をお買い求めになるときは、お買い上げ販売店またはビクターサービス窓口にお問い合わせください。
- 本機を使用中に、イヤホンから「ピピ、ピピ……」(約 10 秒間隔)というアラームが鳴り、動作ランプが点滅する場合は、バッテリーが消耗しています。充電を行なってください。

コントロールマイクロホン（別売）を接続する

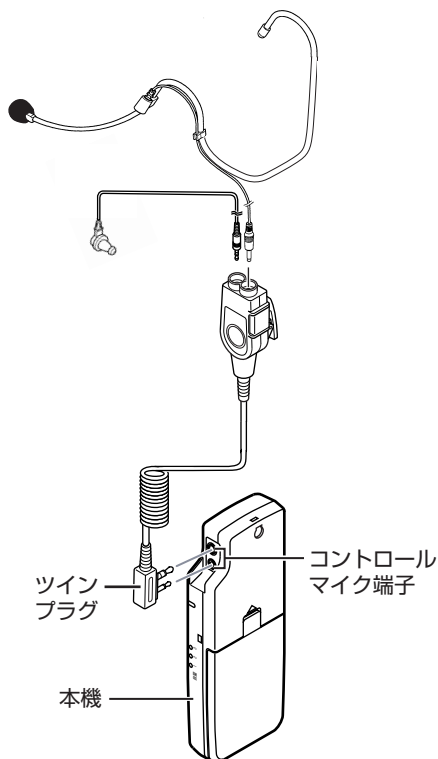
別売のコントロールマイクロホンのツインプラグを本機のコントロールマイク端子に接続します。

コントロールマイク適合機種:WD-UM20

※ WD-UM20 の取扱説明書もご覧ください。

ご注意

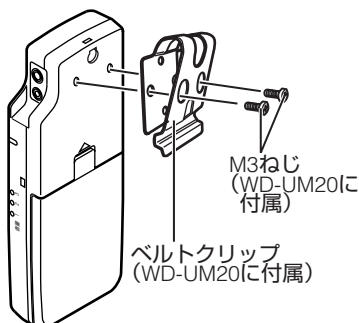
- 本機専用のコントロールマイクロホンをご使用ください。他のコントロールマイクロホンを接続しても動作しません。また、故障の原因となることがあります。
- プラグの抜き差しは、必ず電源を切った状態で行ってください。雑音や誤動作の原因となることがあります。
- プラグが抜けないようにしっかりと端子に接続してください。
しっかりと接続されていないと、使用中に通話ができなくなったり、プラグが抜けたりします。
また、雑音発生の原因となることがあります。
- コードを引っ張らないでください。
断線の原因となります。
必ずプラグ部分を持って抜いてください。
- プラグの金属部分を手で触るなどしないでください。接触不良の原因となります。
定期的に、乾いたきれいな布などでふき取ってください。



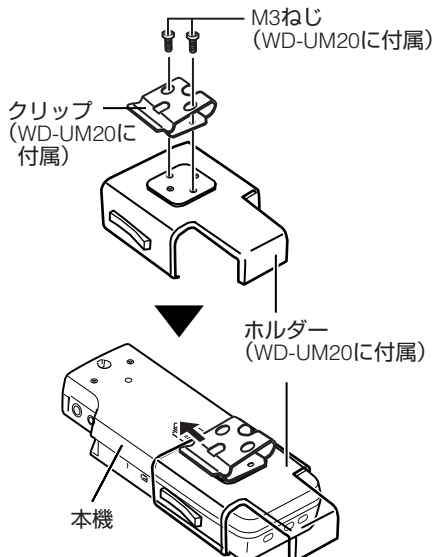
ベルトクリップを取り付ける

ベルトなどに付けて使用したい場合に、ベルトクリップ(別売の WD-UM20 に付属)を取り付けます。

本機に取り付ける



ホルダーを使って取り付ける

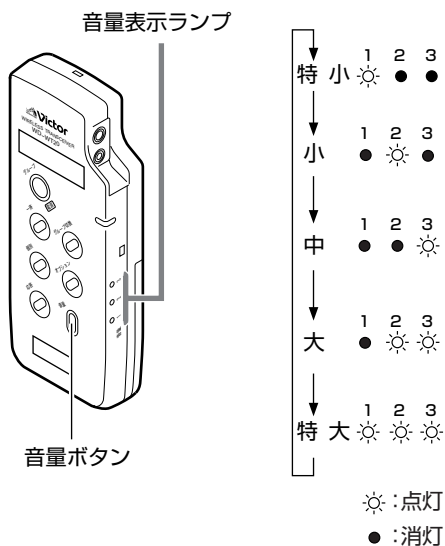


イヤホンの音量を調節する

- 他のワイヤレストランシーバー、ポータブルトランシーバーまたは多機能電話からの音声を聞きながら、音量を調節します。
- 本機の[音量]ボタンを押すごとに音量が大きくなります。
- 最大音量のときに[音量]ボタンを押すと、最小音量になります。
- [音量]ボタンを押すと、音量表示ランプの点灯状態で音量を確認できます。

メモ

- [音量]ボタンを押していないときは、音量表示ランプは消灯しています。



構内放送用の グループ / チャンネル を設定する

- 構内放送用のグループとチャンネルを設定します。
- ワイヤレスチューナーの取扱説明書もご覧ください。

ご注意

- グループ / チャンネルの設定は、設置業者へおまかせください。
- 構内放送の設定をする前に、WD-1000シリーズまたはWD-2000シリーズに子機の登録を行なってください。

1. 本機の電源を切る。

- 動作ランプが消灯します。

(電源の切り方は 12 ページをご覧ください。)

2. バッテリーを取りはずす。

3. グループ / チャンネルの組み合わせを選択する。

グループ / チャンネルの設定組み合わせは下表をご覧ください。

<グループ / チャンネル組み合わせ表>

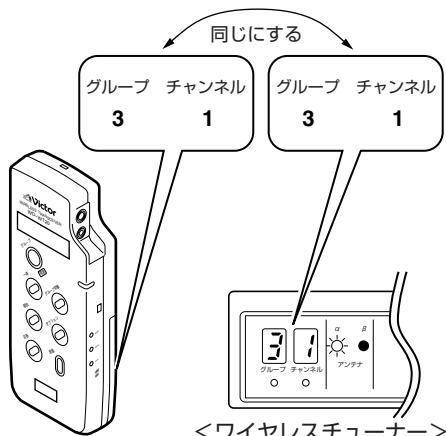
| 呼称 | チャンネル | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
|----|-------|--------|-----|-----|-----|-----|-----|
| | B | グループ 1 | B11 | B12 | B13 | B14 | B15 |
| 2 | | B21 | B22 | B23 | B24 | B25 | B26 |
| 3 | | B31 | B32 | B33 | B34 | B35 | B36 |
| 4 | | B41 | B42 | B43 | B44 | B45 | B46 |
| 5 | | B51 | B52 | B53 | B54 | B55 | - |
| 6 | | B61 | - | - | - | - | - |

※ 組み合わせ表にない設定や” - ” 部の設定は使用できません。

(工場出荷時 : 「B31」)

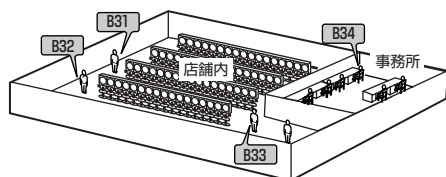
ご注意

- 本機とワイヤレスチューナーのグループ / チャンネル設定が同じになるように設定してください。



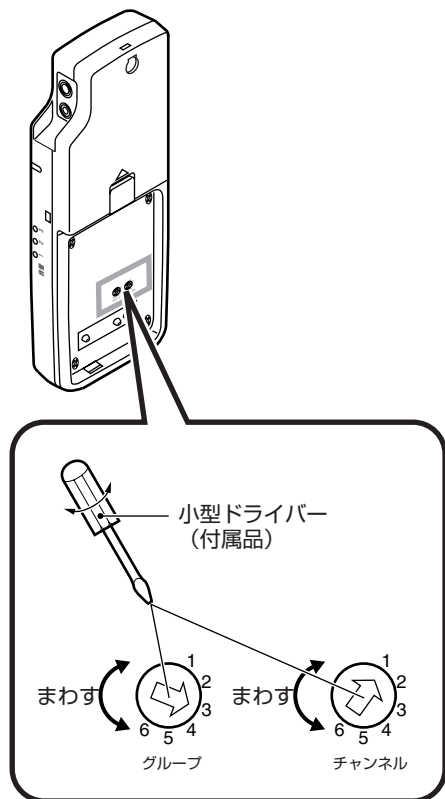
- 同一場所で、ワイヤレスランシーバーやワイヤレスマイクを同時に 2 本以上使用する場合は、すべて同じグループですべて違うチャンネルに設定してください。

<例>



4. グループ / チャンネルを設定する。

付属の小型ドライバーで、[グループ] / [チャンネル] 設定スイッチの矢印を手順 3. で選択した数値に合わせます。



5. バッテリーを取り付ける。

設定が終了したら、手順 2. ではずしたバッテリーを取り付けます。

6. 設定の確認をする。

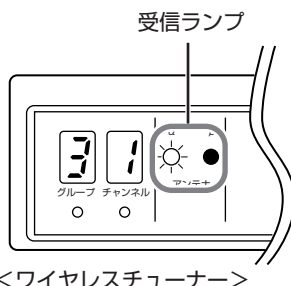
電源を入れたらコントロールマイク(WD-UM20)の[MIC]スイッチを押します。このとき、正常に設定されていると、動作ランプがオレンジ色に点灯します。

ご注意

- 動作ランプがオレンジ色に点灯せずに、音量表示ランプの [3] が赤色に点灯したときは、設定に誤りがあります。設定を見直してください。

近くにワイヤレスチューナーがあるときの確認方法

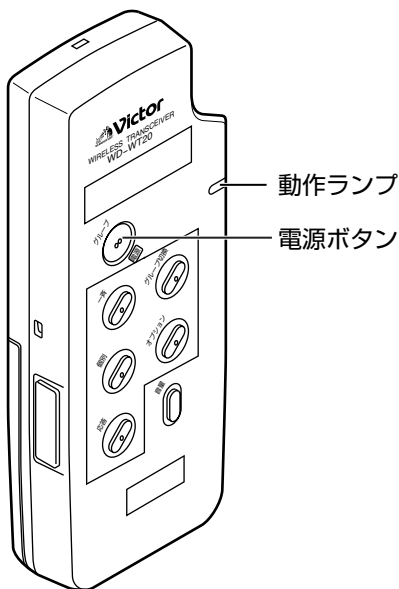
本機の電源を入れ、コントロールマイクの[MIC]スイッチを押します。このとき、ワイヤレスチューナーの受信ランプが点灯すると、正常に設定されています。点灯しない場合は、設定を見直してください。



電源を入れる / 切る

ご注意

- 耳にイヤホンを付けたまま電源の入 / 切をしないでください。大きな音が出て耳を痛める原因になることがあります。



電源を入れる

- [電源] ボタンを押します。このとき、動作ランプが緑色に点滅するまで押し続けてください。
- 動作ランプが緑色に点灯すると、通話ができます。

ご注意

- 接続できるセルステーション(親機)が近くにない場合は通話できません。(動作ランプが赤色点灯)通話可能エリアに移動してください。

電源を切る

動作ランプが消灯するまで、電源ボタンを押し続けます。(約3秒)

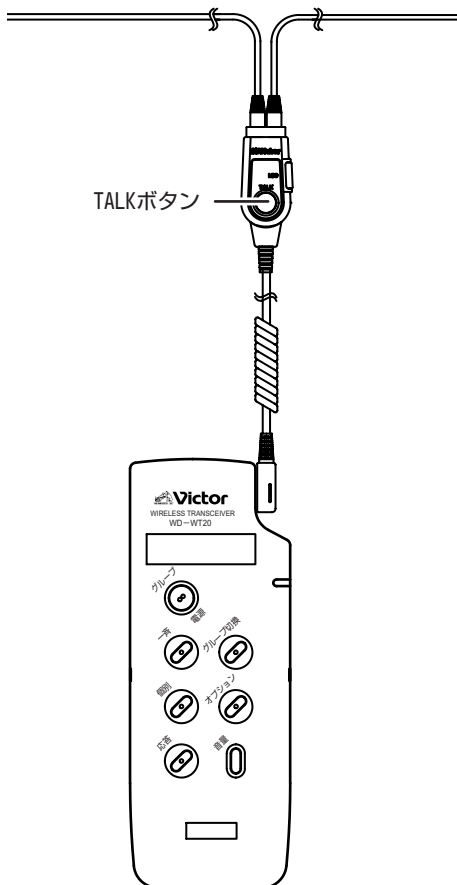
ご注意

- グループ切替モードでの通話後に電源を切る場合は、動作ランプが緑色に点灯していることを確認してください。

業務連絡をする

ご注意

- デジタルインターカムシステム (WD-1000シリーズ/WD-2000シリーズ)で使用する場合、子機登録が必要です。
子機登録については、お買い上げ販売店または、最寄りのビクターサービス窓口にご相談ください。



グループ内で通話をする (グループ通話モード)

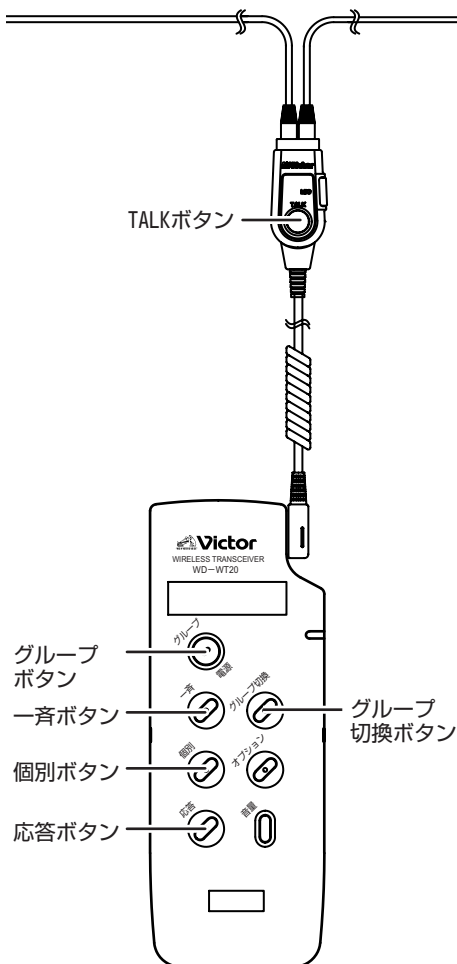
- 同じグループのワイヤレストランシーバー同士で、複数人で同時に会話ができます。
- グループ通話モードでの会話は、同じグループのワイヤレストランシーバーにも会話は聞えます。他のグループのワイヤレストランシーバーには会話内容は聞えません。
- 本機の電源を入ると、自動的にグループ通話モードになっています。通常はこのモードです。

ご注意

- グループ分け設定は設置時に設定されています。グループ分け設定の変更については、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。

- 1 コントロールマイクの [TALK] ボタンを押しながら、マイクに向かって話します。
- 2 話し終わったら、[TALK] ボタンを離します。

業務連絡をする (つづき)



※ 本機のボタン位置は工場出荷時のものです。

グループを切り換えて通話をする (グループ切換モード)

- 切り換えた先のグループのワイヤレストランシーバーと会話ができます。
- 同じグループのワイヤレストランシーバーに会話の内容が聞こえます。他のグループのワイヤレストランシーバーには会話の内容は聞こえません。

ご注意

- グループの切り換えをするには、システム設定の変更が必要です。システム設定の変更については、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。

1. 本機の [グループ切換] ボタンを押す。

- ・ グループ切換モードに切り換わり、イヤホンから”ピッ”と音がします。
- ・ イヤホンから”ピッピッ”という音(無効音)が聞えたときは、切り換え先のグループが定員に達していて参加できなかったときです。しばらくしてからやりなおしてください。

2. コントロールマイクの[TALK]ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。

通話が終わったら [グループ] ボタンを押すと、切り換え前のグループ(グループ通話モード)に戻ります。

すべてのグループに対して通話をする（一斉連絡モード）

- グループに関係なく、全員に一斉に連絡したいときに使います。
- 一斉連絡中に他の人が[応答]ボタンを押すと、2人での個別通話に切り換わりません。

1. 本機の [一斉] ボタンを押す。

- ・ 一斉連絡モードに切り換わり、イヤホンから"ピッ"と音がします。
- ・ イヤホンから"ピッピッ"という音(無効音)が聞えたときは、他の人がすでに一斉連絡や個別呼出をしています。しばらくしてからやりなおしてください。

2. コントロールマイクの[TALK]ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。

- ・ 会話内容は、グループに関係なく全員に聞えます。
- ・ 個別通話中の人には聞えません。
- ・ 一斉連絡中に他の人が [応答] ボタンを押すと、個別通話に切り換わります。(☞ 16 ページ)
- ・ 通話が終わったら [グループ] ボタンを押すと、グループ通話モードに戻ります。一方がグループ通話モードに戻ると、相手も自動的にグループ通話モードに戻ります。
- ・ 本機の [グループ切換] ボタンの設定がされている場合に、[グループ切換] ボタンを押すと、切り換えた先のグループで会話ができます。(☞ 14 ページ)

特定の人を呼び出す（個別呼出モード）

あらかじめ設定している特定の人（最大2人まで設定可能）と個別通話したいときに使います。

ご注意

- 特定の人の設定は、設置時にシステム側で設定されます。システム設定については、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。
- システム設定で個別通話モードを個別グループ方式に設定している場合、個別グループに空きがない状態で個別呼出モードに切り換えると、"ピッピッ"という音(無効音)が聞え、特定の人を呼び出すことができません。システム設定については、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。

1. 本機の [個別] ボタンを押す。

- ・ 相手呼び出ししている間、イヤホンから"ルルルル..."という音(呼出音)が聞えます。
- ・ 呼出音のあとに"ブーッ、ブーッ..."という音が聞えたときは、相手が通話エリア外にいるか、電源が入っていないときです。一度、[グループ]ボタンを押してグループ通話モードに戻り、最初からやりなおしてください。
- ・ 呼出をやめたいときは、[グループ]ボタンを押すと、グループ通話モードに戻ります。

☞ 次のページへ...

業務連絡をする (つづき)

1. 本機の [個別] ボタンを押す。(つづき) ご注意

- "ピッピッ"という音(無効音)が聞えたときは、下記のような状態になっているときです。しばらくしてからやり直してください。
 - ・他の人が一斉連絡中のとき。
 - ・呼び出そうとした人が、他の人から呼び出されている、または他の人を呼び出しているとき。
 - ・呼び出そうとした人が個別通話中のとき。

2. 相手が [応答] ボタンを押すと、個別通話モードに切り換わります。

個別呼出や一斉連絡に応答する (個別通話モード)

- 下記のような状態に [応答] ボタンを押すと、個別通話ができます。このとき、会話の内容は他の人には聞えません。
- ・個別呼出で呼ばれたとき。
 - ・一斉連絡中。
 - ・外線が転送されてきたとき。

ご注意

- システム設定で個別通話モードを個別グループ方式に設定している場合、個別グループに空きがない状態で [応答] ボタンを押すと、"ピッピッ"という音(無効音)が聞え、応答できません。システム設定については、お買い上げ販売店または設置業者にお問い合わせください。

1. イヤホンからお知らせ音が聞えたら、[応答] ボタンを押す。

- ・ [応答] ボタンを押すと、イヤホンから "ピッ" と音がし、個別通話モードに変わります。
- ・ お知らせ音の種類は下記のとおりです。

| お知らせ音 | 内容 |
|--------------------|----------------------------|
| "ピッ" | 一斉連絡が入っています。 |
| "ブップッ、ブップッ…" | 他のポータブルトランシーバーから呼び出されています。 |
| "ブップブップッ、ブップブップッ…" | 外線から電話がかかっています。 |

2. コントロールマイクの [TALK] ボタンを押しながら、マイクに向かって話す。

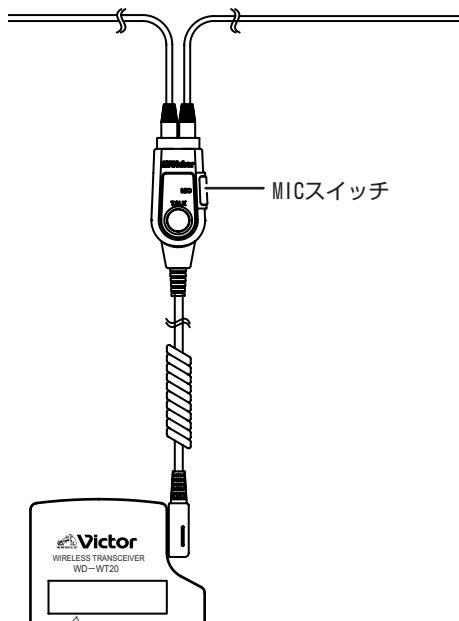
- ・会話内容は、他の人には聞えません。
- ・通話が終わったら [グループ] ボタンを押すと、グループ通話モードに戻ります。
- ・一方がグループ通話モードに戻ると、相手も自動的にグループ通話モードに戻ります。(外線に応答したときは、自動的にグループ通話モードには戻りません。 [グループ] ボタンを押して、グループ通話モードに戻ります。)
- ・本機の [グループ切換] ボタンの設定がされている場合に、[グループ切換] ボタンを押すと、切り換えた先のグループで会話ができます。(P.14 ページ)

構内放送をする


構内やフロア内などにワイヤレストランシーバーから直接放送できます。

ご注意


- 構内放送するには、別売のワイヤレスチューナーなどの放送設備が必要です。また、ワイヤレスチューナーは構内放送設備と接続されている必要があります。
- 接続と設定については、お買い上げ販売店または設置業者にご相談ください。



1. コントロールマイク (WD-UM20) の [MIC] スイッチ (緑色) を押す。

[MIC] スイッチ (緑色) は押すことでロック () がかかり、スイッチから手を離れたまま構内放送ができます。


ご注意

- [MIC] スイッチがロック () 状態のときは、[TALK] ボタン (黄色) を使用することができません。

メモ

- 構内放送をしているときでも、業務連絡 (グループ通話、一斉連絡) の会話は聞えます。

2. 放送が終わったら、[MIC] スイッチを押す。

[MIC] スイッチ (緑色) のロックを解除 () すると、グループ通話モードに戻ります。

こんなときは

使用中に不具合が生じた場合は、下記の内容をお調べください。

それでも症状が改善されないときは、お買い上げ販売店またはビクターサービス窓口にお問い合わせください。

| 症 状 | チェック内容 | 処 置 | 参照ページ |
|-------------------------|--|--|-------|
| 電源が入らない 電源がすぐに切れる | バッテリーは正しく取り付けられていますか？ | バッテリーを正しく取り付けてください。 | — |
| | バッテリーが消耗していませんか？ | 充電してください。 (充電してもすぐに電源が切れる場合はバッテリーの寿命です。新しいバッテリーを購入してください。) | 7 |
| グループ通話に 参加できない | 電池残量は十分に残っていますか？ | 充電してください。 | 7 |
| | 動作ランプが赤色に点灯していませんか？（近くに空いているセルステーションがないと、会話に参加することができません。） | システム設定の変更または、セルステーション（別売）の増設が必要です。 お買い上げ販売店または設置業者にご相談ください。 | — |
| | グループが定員に達していませんか？ | | |
| 構内放送ができない | グループ / チャンネルは正しく設定されていますか？ | チューナーと同一のグループ / チャンネルに設定されているか確認してください。 | 10 |
| | ワイヤレスチューナーと放送設備は接続されていますか？ | お買い上げ販売店または設置業者にご相談ください。 | — |
| 構内放送が途切れる 構内放送に雑音が入る | アンテナから離れすぎていませんか？ | アンテナに近づいてください。 | — |
| | ワイヤレストランシーバーの近くに、金属類や携帯電話はありませんか？ | ワイヤレストランシーバーから、金属類や携帯電話を離してください。 | — |
| | コントロールマイクのケーブル部分を本機に巻きつけていませんか？ | ・ケーブルを本機に巻き付けないでください。 ・マイクを本機から離してください。 | — |

保証とアフターサービスについて

保証書の記載内容で確認と保存について

この商品には保証書を別途添付しております。保証書はお買い上げ販売店でお渡します。保証書は所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

保証期間について

保証期間は、お買い上げ日より1年間です。保証書の記載内容により、お買い上げ販売店が修理いたします。なお、修理保証以外の補償はいたしかねます。故障その他による営業上の機会損失は補償致しません。その他詳細は保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

保証期間経過後の修理については、お買い上げ販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料にて修理いたします。

アフターサービスについてのお問い合わせ先

アフターサービスについてのご不明な点はお買い上げ販売店、または別紙サービス窓口案内をご覧ください。最寄りのサービス窓口にご相談ください。

修理を依頼されるときは

お買い上げ販売店、またはサービス窓口にて次のことをお知らせください。

| | |
|---------|-------------------|
| 品名 | : ワイヤレストランシーバー |
| 品番 | : WD-WT20 |
| お買い上げ日: | |
| 故障の状況 | : 故障の状態をできるだけ具体的に |
| ご住所 | : |
| お名前 | : |
| 電話番号 | : |

消耗部品について

下表は消耗部品の一覧です。これらの部品交換にともなう部品代、および技術料、出張料を含む修理費用は保証期間内でも有償となります。

| 部品名 | 部品番号 |
|----------|-----------------|
| バッテリーパック | SS35736-00F-S |
| 小型ドライバー | LS40739-001A |
| 機能ラベル | SS412593-002 |
| チャンネルラベル | SS4132334-001-H |

商品廃棄について

この商品を廃棄する場合は、法令や地域の条例に従って適切に処理してください。

仕様

■ 業務連絡

送受信周波数 : 1.9 GHz 帯
 送信出力 : 10 mW (平均)
 受信感度 : 16 dB μ V 以下

■ 構内放送

送受信周波数 : 806.125 MHz ~
 809.750 MHz 間の
 125 kHz ステップ、30 波
 送信出力 : 5 mW
 実用到達距離 : 約 60 m (屋外の見通しの良
 い場所で、当社の、チュー
 ナー / WT-892 とアンテナ /
 WT-Q830 との組合せ時)

■ 共通項目

電源 : DC+ 3.6V (充電式リチウム
 イオン電池使用)
 充電時間 : 約 4 時間 (フル充電)
 使用時間 : 約 8 時間 (フル充電時)
 動作温度範囲 : 0 °C ~ +40 °C
 外形寸法 : 53 mm × 142 mm ×
 21.5 mm (突起部除く)
 (幅×高さ×奥行き)
 質量 : 140 g
 仕上げ : ABS 樹脂、ダークブルー
 付属品・添付物 : 取扱説明書 (本書) × 1
 保証書 × 1
 小型ドライバー × 1
 機能ラベル × 1
 チャンネル / グループラベル
 × 1
 サービス窓口案内 × 1
 電池の取扱いについての
 ご注意 × 1

* 本機の使用および外観は、改善のため予告なく
 変更することがあります。

お客様ご相談センター

フリーダイヤル



0120-2828-17

携帯電話・PHS・FAXなどからのご利用は

電話 **(045)450-8950** [代表]FAX **(045)450-2275**

〒221-8528 横浜市神奈川区守屋町3-12

ご相談窓口におけるお客様の個人情報は、お問合せへの
 対応、修理およびその確認に使用し、適切に管理を行い、
 お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示す
 ることはありません。

ビクターホームページ <http://www.victor.co.jp/>

日本ビクター株式会社

〒192-8620 東京都八王子市石川町 2969-2 電話(042)660-7203